



タイトル番号 : 0013

書名 : 日本外史評

1冊

日本外史評卷下

土佐 鹿持雅澄著

卷九 足利氏下

外史氏曰云々及尊氏奪中興之業尺地一民莫非其有而朝廷徒擁虛器不徒分取之也然名分所在不可踰越故擁戴北朝天子而已以上將寧天下猶源氏之故焉云々

按ニ 後醍醐天皇ノ中興ノ業ヲ足利氏奪取テヨリ尺地一民ト雖ノノ有ニ非ルコトナク天子ハ垂拱シ給ヒテ天下ニ制令シタマフコトナク

53842

論語述而
大至親安
陳氏曰聖
仁之道若
天下无一
人能與於
此是終爲
虛器而无
人能實之
矣

朝廷ト云ハタ、名ハカリナルヲ徒擁虚器トイ
ヘルセノカ虚器トイヘルハ空名トイヘル類ニ
テ徒擁虚器トイフハ嚮ニ徒存空名トイヘル謂
カ又ハ 神器ハ南朝ニ在テ北朝ニハナク 帝
位ハ唯名ハカリナルヲ虚器ト云カ管窺ノ極メ
カタキコトナリ何レニシテモ虚器ト云ルカ空
名ノ謂トランニハ下文ニ應シカタク聞尊氏中
興ノ業ヲ佐ツギ天下舉テ功ニ服シ尺地一民其
制令ニ從ハサルハナシトナラハリモアルベド
ヲ其有ニ非ルコトナシトテハモハヤ君臣ノ名

實ハナケレハ名分所在云々トツ、キタル甚イ
カ、ナリ但シ義滿將軍驕横ナル其身ノ出遊ノ
儀ヲ皇輿ニ擬シ其子ノ元服ノ式ヲ親王ニ准シ
朝貴ヲシテ悉ク已レニ屈敬セシメラレシ類言
語道斷ナリシスラ竟ニ 帝位ヲ狙フコトアタ
ハス帝位ヲフマスシテハ 日本國王トハ稱セ
ラレス國王ト稱セスシテハ生前ノ素望腹ニ盈
サルニヨリテ終ニ外國ニ通信シ明主ノ封ヲ受
テ無理ニ 日本國王ト稱シタルナリカタマテ
專恣ナリシ義滿將軍スラ覬覦スルコトノナラ

マ帝位ヲ何ソ空名虚器トハイハン卷一ノ辨ニ
イヘルヲ合セ見ヘシカヘス、モ可恐事ナ
シヘシ

卷十 後北條氏

外史氏曰制馭天下莫善於形勢苟失形勢不致分裂
者鮮矣云々余嘗歷遊東西考其山河所起伏以爲我
邦地脉自東西而秀漸西漸小譬之人身陸奥出羽其
首也甲斐信濃其脊也關東八州及東海諸國其胸腹
而京畿其腰臀也至山陽南海以西則股耳脛耳故居
其腰臀可以制其股脛不可以制其腹脊且平安四戰

之地天下有事必先被兵不如鎌倉之獨以一面西制
中原也云々方其盛時以鎌倉爲根本而置府於京師
筑紫其制天下如臂使指而足利氏反其所爲舍彼居
此謬矣云々藩屏室町而適啓爭端因又其內訌覆之
而室町遂自是亂矣是其不能制馭四方以襲王室之
敗者非失形勢故哉

按ニ外史氏嘗テ東西ニ歷遊シ山河形勢ヲ見テ
地脉ヲ察シ例ノ一小童ノ世智辨聰ヲ廻ラシ一
筒ノ埋屈ヲ設ク鼻アフラヲ引テ地理ヲ人身ニ
譬ヘタル其ハ至トハ纔鎌倉將軍ヨリ室町將軍

ノ間ニワタルコトニテ元來廣ク今古ニカケテ
云ルコトニテ無レハ只ソノ間ノ專跡ニ即テ云
コトナレハフト聞トキハソノ譯合モ有ヘキ如
ク思ハル、コトナレモ甚イカ、ナリ往古ハ京
畿ノ腰臂ニ居テ腹背ノ地ヲ制服人ルコトヤス
ク又平將門ノ如キタトヒ胸腹ノ地ニ居テモ乱
賊ヲモテ京畿ノ腰臂ニ勝コトナラスシテ踵ヲ
旋サス誅戮ニツキシ類ハ固ヨリ未ダ王德ノ盛
強豊大ナリシ時ノコトナレハ例ニ比スヘキニ
アラ子ハ姑ク置テ論セズ然ニ外史氏末ニ又論

シテ夫足利氏驚其網維權臣内鬪海内戰爭所以
然者無他故焉天下英雄各以其心爲心而至將不
能收攬之焉耳云々ト云ヒ前ニモ足利氏之欲弁
有名實也於其自處已爲失義而於其事上御下之
際又有失許者云々是所謂兩失名實也豈非計之
失者哉ナトアルニテ見レハ其上ニ事ヘ下ヲ御
スル際ニ於テ失計ナク網維ヲ亂サス徳ヲ積ミ
仁ヲ施スモノナラハタトヒ腰臂ノ地ニ居テモ
永ク腹脊ヲモ股脛ヲモ俱ニヨク制服スヘシト
ニヤモシサラハ足利氏及其所爲舍彼居此謬矣

云々非失形勢故哉トイヘルニ皆齟齬スルヲヤ
若信ニ德ヲ積ミ仁ヲ施シ義ヲ失ハス計ヲ失ハ
サレハ四方ヲ制服スルニ易ク必シモ地勢ニヨ
ルコトニハ非スタトヒ地勢ハ宜クテモ義ヲ失
ナヒ計ヲ失フトヤハ四方ヲ制服スルコト能ハ
ストスルトヤハ人身ノタトモ鋭ヒ定ヲナル
ハイカニ加之タトヒ鎌倉ノ胸腹ニ居テモ義ヲ
敗リ計ヲウシナヒテ内訌反噬ノ禍起ランニ於
テハ高時カ如ク腰臂ノ一舉ニ速ニ誅滅ニ就ヘ
キナレハ其德ニアリテ必シモ地ニヨルヘカラ

ス地ノ利ハ人ノ和ニ如ストスル下キハ舍彼居
此謬矣トイヒ難カルベケレハ腹背腰臂ノタト
ヘモトニカク無益ノ長物ナルヘキヲヤ

卷十一 武田氏
上杉氏

外史曰世傳二家兵書有出後人假託者不可盡信特
言兵於我邦期乎二公者不可不知其由也夫勇悍趨
捷重恥輕死我國俗所自有我先王又養之以恩結之
以信所以撫摩鍊治之經數百年闔國之民親其上
死其長如手足之扞頭且以能震懾四隣雖魏唐之強
大不能加焉者特此俗也及至混唐氏乃舍此學彼劉

樸為友、鏗強為弱、時平奔競、有急遁逃、幾乎舉朝皆婦人矣云々

按ニ皇朝舒明天皇二年ニ大上ノ三田耜ヲ遣唐使ニ立フレ四年ニ彼土ヨリ高表仁ト云人ヲ参ラセテ三田耜ヲ送シリコレヲ正レク唐太宗カ貞觀ノ年ニ當レリソノ後 元正人皇靈龜ノ年 眞備大臣仲滿 臣ノ如キ人ノ唐ニ存ノ同學アリシハ正シク玄宗カ開元ノ年ニ當レハソレヲヲサシテ通唐氏ト云ルカ然ニソレヨリハ遣ニ以往後玉音武帝於時 皇朝應神天皇十五年ト

云ニ百濟王ヨリ阿直岐ト云者ヲ入朝セシメソノ明ル年又玉仁ト云モノ参リ來シヲ則太子菟道稚子師トシテ諸典籍ヲ學ヒ給テ普ク通達シ給シヨリイハユル此ヲ舍テ人皆彼ヲ學フ事トナリテ漸異國ノ風俗ニ移リシヲソノ後アマタノ年歴テ彼土北齊孝元カ時 皇朝欽明天皇十三年ト云ニ又百濟王ヨリ佛像經論ヲ獻リソノ後聖德太子蘇我馬子ヲカツ佛教ヲ信シテヨリ樸ヲ劉リ又ニ爲シ事ハ更ニテ吾 神明ヲ蔑ニシ彼蕃鬼ヲ敬ヒ恐多クモ 日神ノ御掟ニモト

リ君臣ノ大倫ヲ失ヒ亂臣賊子ノ交起ル事ニナ
レリシハ又ナキ世ノ變遷トハ云ナカラアサキ
シキ事ナリカクテ彼土隋陽帝カ大業三年 皇
朝推古天皇十五年ト云ニ妹子ノ臣彼方ニ遣シ
、コレ 皇朝ヨリ外國ヘ 天使ヲ遣ハサレシ
始メナリ此類ヨリシテ外國ノ風ニ世間オナヘ
テ染着タリ然ヲ唐氏ニ通信シ彼テ土ノ風俗ヲ
學習シ終ニ吾先 王ノ稜威ノ盛強ナリシソノ
末朝舉リテ婦人ニ幾クナレリト外國ノ風ノ移
レル弊ヲ云ルハサル事ナカラ唐氏ヨリ以前ノ

事ヲ深ク考ヘスレテ云ル外史氏カ例ノ疎漏ナ
ルカ但シ唐氏ト云ルハ必ス唐朝ノ事ニハ非ス
ナヘテ漢土ヲサシテ云ル事カカクテ武田信玄
上杉謙信二家ノ兵ヲ用フル事ハ精之精者ナリ
ト云ルハ違ハ子ト嘗テ 皇朝ノ今古ヲ夷考ス
ルニ武田上杉ハカリ無名ノ私戰ノ強大ナリシ
ハ前ニモ後ニモ聞及ハスソノ後織田氏豊臣氏
ハ皆 王家ニ勤勞アリシ事ニア夏ニカノ二家
ノ類ニ非ス外史氏二家ヲ賞シテ一時ニ比肩接
踵ス希世ノ遇ト謂ツヘシマコトニ信玄ハ一謙

信ニ歎シ謙信亦一信玄ニ對スルヲ以テ生涯ノ
樂ト互ニ芳ヲヌ大資ノ豪兵ナリシヲ心ヲ
室ニ存セス 朝廷ノ衰頽ヲ餘所ニ見シコソ恨
メレケレ彼等カ絶倫ノ智略ヲ以アハレ一心戮
力勤 王アリシナランニハ末世ノ美談ナルヘ
キヲ歎クヘシ惜ムヘシ後ノ道ニ志アラン徒ハ
熟察スヘキ事ナルヲ外史氏例ノ武略興敗ノ未
ヲノミ論シテ國家鎮護ノ本ニ及ハサルハ遺憾
ト云ヘシ

再按ニ 應神天皇ノ時百濟ヨリ阿直岐王仁杯

參リ來リシヨリ始テヤ、韓土ノ俗ニ變シタリ
シ事多カリシカ 孝徳天皇 天智天皇ノ時ニ
嘗リテ三百數十年來沿革ヲリシ韓風ヲ屏ケテ
唐氏ノ制度文物ヲ專用ヒラレテ後世ニ法トス
ヘキ典禮ヲ定メ給ヘリサルニ因テ 天智天皇
ヲ中興ノ 帝ト稱シ奉レリソノ後 文武天皇
ノ英斷ヲ以テ律令ヲ修シ釋奠ヲ始メ給ヘリシ
ハ 天智天皇ノ御志ヲ繼セ給ヘリト云ヘシサ
レハ兼タマハリテハ 孝徳天皇 天智天皇ノ
時ヲサシテ至通唐氏劉樸為友ト云ンモ大昔ハ

違ハスサレト彼時ヨリハ以徃佛教ヲ信シテヨ
リ赫々タル我 神威ヲ輕ンシ彼胡鬼ヲ重ンシ
君父ヲオキテ來世ヲ行カヘル事唐以テ慕フニ
過タル事許多ナリコレ舍此學彼鏗強爲弱事ノ
甚シキ者ナリ其弊終ニ君ヲ殺スル亂起レリ
義ヲ重ンシ死ヲ輕ンシ勇威豊大ナリレハ數百
千年來我 皇朝ノ國體ノ固有スル所ニシテ四
隣ヲ震懾スル事ハカク魏唐ノ盛強ナリシ時ト
云急モ角及フ可ラストイヘルハ固ヨリナル事
ナレト上古ノ風ツヤ、變遷シ來レル由ヲ論ニ

考ヘスシテハ混スル事ナリ又曰コレハ近世
皇朝ノ古ヲ信スル徒ノ唐風ノ潤色ニナシテ吾
上代ノ淳朴ウツロヒテ衰弱ニナレルト常ニ
云テ歎ク事ノ耳ノ底ニ留リ居タルヨリ外史氏
フトソレヲ思ヒ出シテ云ル事ナレト實ニ 皇
朝上代ノ風ノ唐土ニナラヒテ文ニ變シ弱ニ遷
レル所由ヲ深ク考ヘ試ミタルニ非ルハモトヨ
リニテ識者ニ聞テ謂ルニモ非サレハカクノ如
ク疎漏ナル事決シテ論スルニ足サル事ナリ唐
風唐意ナト云ハモト所見アリテ云事ニテ職カ